りょうかわ

学校だより　令和3年1月14日発行　第17号　新潟市立両川小学校

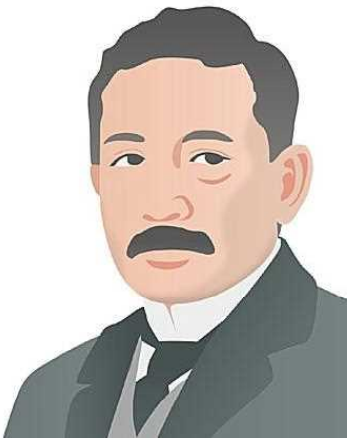
夏目漱石の手紙から

校長　　中村　雅芳

夏目漱石は，生涯に 2,500 通もの手紙を残したそうです。その中で，おそらく最も有名なのは，門下生である芥川龍之介に宛てた手紙（大正５年２月１９日付）でしょう。

> 新思潮のあなたのものと，久米君のものと，成瀬君のものを読んでみました。あなたのものは大変面白いと思います。落ち着きがあって，巫山戯ていなくって，自然其儘の可笑味がおっとり出ている所に上品な趣があります。夫から，材料が非常に新しいのが眼につきます。文章が要領を得て，能く整っています。感服しました。ああいうものを，是から二，三十並べてご覧なさい。文壇で類のない作家になれます。然し，「鼻」丈では，恐らく多数の人の眼に触れないでしょう。触れても，みんなが黙過するでしょう。そんな事に頓着しないでずんずんお進みなさい。群衆は眼中に置かない方が身体の薬です。

『鼻』という短編小説を激賞する内容です。この手紙と漱石の後押しがきっかけとなり，芥川が作家として大成していったのは有名な話です。同じ年の８月２１日には，芥川龍之介と久米正雄，２人に宛てて次のような手紙を送っています。



> 勉強をしますか。何か書きますか。君方は新時代の作家になる 積 でしょう。僕も其 積であなた方の将来を見てゐます。どうぞ偉くなつて下さい。然し無暗にあせつては不可ません。たゞ牛のやうに図々しく進んで行くのが大事です。

そして８月２４日には，もう一通。

> この手紙をもう一本君らに上げます。君らの手紙があまりに溌溂としているので，無精の僕ももう一度君らに向かって何かいいたくなったのです。いわば君らの若々しい青春の気が，老人の僕を若返らせたのです。（中略）牛になる事はどうしても必要です。吾々はとかく馬になりたがるが，牛には中々なりきれないです。僕のような老猾なものでも，只今牛と馬とつがって孕める事ある相の子位な程度のものです。あせっては不可ません。頭を悪くしては不可ません。根気づくでお出でなさい。世の中は根気の前に頭を下げる事を知っていますが，火花の前には一瞬の記憶しか与えて呉れません。うんうん死ぬ迄押すのです。それ丈です。決して相手を拵らへてそれを押しち

や不可ません。相手はいくらでも後から後からと出てきます。そうして我々を悩ませます。牛は超然として押して行くのです。何を押すかと聞くなら申します。人間を押すのです。文士を押すのではありません。これから湯に入ります。

これらの手紙から，私は漱石の真意（メッセージ）を次のように解釈しました。

- **牛のように根気強く，地面に足をしっかりとつけ，自分らしさを大事にして，思い定めた道をしっかりと進め。**
- **世の中では，根気のいる仕事が評価される。火花のように華やかではあるが，短命に終わる仕事はすぐに忘れられてしまう。**
- **文士で立ち向かおうとすればライバルはいくらでも出現する。文士という「肩書」で仕事をするな。自分を見失うことなく，黙々と「一人の人間」としての自分を押していけ。**

新春早々の緊急事態宣言，そして災害的積雪と，心乱れる出来事が次々に生じる現在です。日々さまざまな情報が流れ，ともなって世界や人々が馬のごとく走る現在です。「成長とは，いかに速く走れるかだ！」という価値観の中で，わざわざ立ち止まることには勇気が必要です。激流に流されない，意志の強さと足腰の強さが必要です。きっとそれができるのが，漱石の考える「牛」なのです。

丑年の２０２１年だからこそ，約１００年前に書かれた漱石の言葉をかみしめなければならない。そう強く思います。保護者の皆様，今年もよろしくお願い申し上げます。

新春を彩る子どもたちの「ゆめ」の数々

１月７日（木）から２月２日（火）まで，両川小学校の子どもたち１８名（各学年３名ずつ）の「ゆめ」が，新潟日報朝刊に連載されています。記念すべき最初の「ゆめ」は１年生の生神倫太郎さんでした。

僕は，ずっと郵便屋さんになりたいと思っています。手紙などを配って，届けるのが楽しそうだからです。手紙をポストから集めて分けて，たくさんのおうちに一軒一軒届けて，喜んでもらいたいです。たくさんのおうちのいろいろなポストを見るのも楽しそうです。配りながら，いろいろなところをまわって，地域のことも知りたいです。

文面から倫太郎さんの穏やかな人柄や優しさが伝わってきて，とても温かな気持ちになりました。将来の地域の担い手としての期待も高まりますね。

１８名の子どもたちが描いた夢は，一人一人まったく違っていて，どの夢にも個性と明るさがあふれています。子どもたちの夢が実現するような明るい未来を私たち大人は責任をもって創っていかなければなりませんね。２月２日（火）までの連載をみんなで一緒に楽しみましょう（日曜日と月曜日はお休みです）。